

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info@teisotoyoka.com

ホーキング博士が亡くなりました

先日まで、大雪の話題をしていたと思ったら、あっという間に桜満開の時期になってしまいました。啓蟄も過ぎ、いよいよ生物が活発に動き出す時期を迎えます。

さて、子どもの頃から、生物はどうして地球で進化したのか？そもそも、どうやって無機物から有機体ができなのか？地球は、宇宙は、どうしてできたのか？とても不思議に思っていました。一般相対性理論を導き出したアインシュタインに憧れたりもしました。この年になっても、別に普段の生活には全く関係の無い事なので意識することはありませんが、ふとテレビなどで関連の番組が放送されると、興味深く観入ってしまいます。

この3月14日に、ケンブリッジ大学のホーキング博士が亡くなりました。76才だったそうです。若いときに、全身の筋肉が徐々に動かなくなる筋萎縮性側索硬化症を発症して、車いすの生活を余儀なくされた人生でしたが、宇宙物理学者として、数々の論文を発表しました。その論文自体は、私には難しくて到底読み切れるものではありませんが、彼の発表した人類の未来については、前々から大変興味を持っていました。

昨年末に放送されたNHKのコズミックフロント☆ネクストの中でホーキング博士は、人類は、近い将来に宇宙空間を移動し別の移住先を見つけるか、滅亡するかという問題を提言していました。ホーキング博士は、以前から、ヒトが地球に生存し続けるには、地球以外の惑星に移住する必要があると説いていました。数年前まで、それに係る数年前は1000年以内とっていましたが、昨年は100年以内に自ら訂正をしています。それくらい早いスピードで、技術の発展と危機がやってくることを心配しているとのことでした。原因は、人口増加・気象変動・感染症・小惑星の衝突などだそうです。SFの世界の物語と思っていた出来事が、身近になりつつあることを実感した次第です。

ヒトが今の文明を築いて数千年です。この間、奇跡ともいわれる進化を遂げて現在に至っています。指数関数的に進歩する物理的文明にヒトはついていけるでしょうか？AIの進化には著しいものがあります。創りだしてしまったものと共存を図りながら最後のフロンティアへ旅てるのでしょうか。明るい未来が待っていることを期待したいと思います。

ペストコントロールも生物間の関りや環境問題解決の一端を担う仕事です。この仕事なかなか奥が深く哲学的な問題もあるのでは、と思うこともあります。社会的地位と認知度の向上を目指して頑張りたいと思います。近い将来、火星コロニーにも有害生物と呼ばれる生き物が発生するかもしれません。100年ですか…。(MK)

今月のオススメ STRONTEC：コンパクトで設置場所を選ばない室内用の飛翔昆虫防除器です



(交換用カートリッジ)

微粒子状の薬剤噴霧で室内の飛翔昆虫の防除を自動で行なう防除機器です。ピレスロイド系の薬剤によって飛翔昆虫に対して即効性がありつつも薬剤の残留は少なく、煙も出ないのでオフィスや飲食店の客席にも安心してご使用いただけます。単三乾電池2本の電池駆動で最長3ヶ月使用でき、高さ23.5cm×奥行4.5cm×幅6cmとテレビのリモコンサイズの本体は電池と薬剤を含めても230gと軽く、両面テープでも壁面に十分に設置が可能です。

自然の復元力 Vol. 87

鳥類についての情報が一般的に不足していると思いますが、先月に引き続き、鳥の渡りについて考えたいと思います。

前回、私たちの身近で群れている野鳥の殆どが渡り鳥であり、夏の期間を過すものや冬の期間過すものがあることを紹介しましたが、これらの鳥がどこから飛んできて、どこに飛んでいくのか、昔は全くわかりませんでした。例えばツバメは秋から翌年の春までの越冬期間、どこかに飛び去ってしまいます。その間ツバメはどこで過ごしているか昔は調べようがなくわかりませんでした。約2200年前には、ギリシャの哲学者アリストテレスは論文の中で、ツバメは冬季には、海に入って魚になっていると記述しているくらいです。

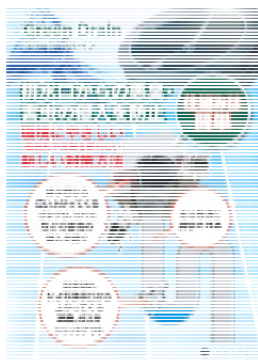
日本での渡り鳥の調査は、1911年ごろに開発された標識法を採用し、1924年から農務省により開始されました。第二次世界大戦の間に一端中断したものの、1960年に再開して渡り先の調査を進めています。1961年頃には62種2321羽、1978年には199種61809羽となり、以来ほぼ毎年6万羽の鳥に標識を付けています。また、各地に渡鳥

観測ステーションを、1975年には一級ステーション9か所、二級ステーション50か所を新設し、渡り鳥の研究を続けています。

一年間の新放鳥数は、231種64000羽を記録し、再放鳥数は104種8274羽でした。日本は他国よりも種数は多いのですが、回収率はわずか1~2%と他国よりもやや低い特徴があるようです。なお、山梨県田富二級標識ステーションで標識を取り付けて放鳥したツバメを追跡した結果、フィリピン、マレーシア、インドネシアなどで再捕獲され、ツバメの越冬地が確かめられたそうです。どうして冬鳥や夏鳥がうまれたのかは、古代より考えられてきました。今まで議論してきた考えを以下に簡単に紹介します。1) 食べ物による自然淘汰説: 北半球の北方には広大な面積の陸地があり、夏季には無数の昆虫が発生することや植物の結実もあって、鳥類の繁殖に適した環境条件です。それが秋になると昆虫や植物の結実が減少していく。そこで鳥類は食べ物を求めて、暖かい南方へ移動し始めたとする考え。2) 気温説: 秋になって気温が低下したり、春になって気温が上昇するときに「渡り」が行われることから、気温が「渡り」の原因といわれる。実際ツバメの渡りは気温に敏感で、ツバメがほぼ9℃の等高線を北上または南下することは気象庁と鳥学者の協力により、詳しく調べられているという。しかしながら、熱帯地方で冬を過ごした鳥たちは、春の渡りを開始するのは気温の変化が見られない頃であることなど、気温の変化だけではない要因の存在を指摘する意見もあるようです。ほかにも、氷河説、大陸移動説などがあり、今後の研究成果が待たれます。(Sin)

参考図書:「中村司著、山日ライブラリー」(2012)

チョウバエ対策グッズ!!! Green Drain



グリーンドレインを、排水溝の径に合わせて密着させ設置すると、水は流れますが、配管の中を這い上がってくるチョウバエ等の害虫や悪臭を阻止することを目的とした商品です。殺虫剤を使用しませんので、環境にやさしいIPMの理念に則った物理的対策が可能です。配管のつなぎ目に設置できるなど、容易に取り付けることが可能で、長期間の効果が期待できます。お問い合わせはお気軽に。お待ちしております。



Eco Friendly Pest Management
自然にやさしい総合的有害生物管理

株式会社テイソートヨカ

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info-teiso@teisotoyoka.com

IPM・コンサルティング・異物同定分析

有害生物(ネズミ、ゴキブリ等)管理・ノラト飛来防止施工

本社・名古屋東営業所	〒468-0045	名古屋市天白区野並 2丁目 334 番地の 2	TEL 052-891-8311	FAX 052-891-8440
名古屋西営業所	〒453-0818	名古屋市中村区千成通 4丁目 18 番地	TEL 052-482-6591	FAX 052-482-8778
三重営業所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-345-3571	FAX 059-345-3572
岐阜営業所	〒501-6264	岐阜県羽島市小熊町島 4丁目 61 番	TEL 058-392-6454	FAX 058-392-6407
北陸営業所	〒920-0356	石川県金沢市専光寺町 47 番地 1	TEL 076-266-6474	FAX 076-267-6480
新潟営業所	〒950-0993	新潟県新潟市中央区上所中 2丁目 1 番 7 号	TEL 025-283-6474	FAX 025-283-6497
四日市技術研究所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-325-6431	FAX 059-325-6430